			改定
改定案(令和7年10月版)	現行(令和7年4月版)	有無	改定理由
土木工事施工管理基準	土木工事施工管理基準	無	
A To = 47.10 E		右	
令和 <mark>7</mark> 年10月	令和7年4月	有	
鹿児島県土木部	鹿児島県土木部	無	

						改货	定案(令和 7:	年10月版)				1					玛	1行(令和7年	=4月版)			改定
						出到	k形管理基準	及び規格値			HEAD' - mm						出	来形管理基準	及び規格値		単位·mm 有	
86	100	齡	3.	枝番	工和	測定項目	規格値	測定基準	測定簡	ac	中位:mm 被要	16	章 前	· 4	枝番	丁 稲	測定項目	規格値	測定基準	測定簡所	梅 要	改定理由
3 土木工事	施	7 地盤改良	7	14.13	パーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ) (ペーパードレーン エ)	位置・間隔w	±100	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。1ヶ所に4 測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は 象外とする。	*	→  ### <sup>©</sup>	3-2-7-7 3-2-7-8	3 土 木 工	2 7 一 地 般 超 応 改 良			パーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ) (ペーパードレーン エ)	位置・開隔w	±100	100本に1ヶ所。 100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。1ヶ所に4本 測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対 象外とする。	3	-2-7-7 -2-7-8	[修正] 国に準拠
共通編		I	8		(袋詰式サンドドレー ン工) 締固め改良工 (サンドコンパクショ ンパイル工)	杭径D	設計值以上	ペーパードレーン工においては、「 次元計測技術を用いた出来形管理要 (案)」の規定による測点の管理力 を用いることができる。	w W	w		共通編	I	8		(袋詰式サンドドレー ン工) 締固め改良工 (サンドコンパクショ ンパイル工)	1*-07 P	設計値以上		W		
						打込長さh	設計值以上	全本数	w	<del>→</del>							打込長さh	設計值以上	全本数	w		
						サンドドレーン、 袋 詰 式 サ ン ド ド レ ー ン、	_	全本数 計器管理にかえることができる。									サンドドレーン、 袋 詰 式 サ ン ド ド レ ー ン、	_	全本数 計器管理にかえることができる。			
						・ サンドコンパクション パイルの砂投入量		サンドコンパクションパイル工においては、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定による測点 の管理方法を用いることができる。		1							サンドコンパクション パイルの砂投入量		_			
										h	ı									h		
									※余長は、適用除外											※余長は、適用除外		
土木	2 世	7 地盤	9	2	固結工 (スラリー撹拌工)	基準高▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認		Ostar	3-2-7-9	+	2 7 世般 報		2	固結工 (スラリー撹拌工)	基準高▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認	3	-2-7-9 有	[修正] 国に準拠
土木工事共通編	般施工	改良工			「「3次元計測技術を 用いた出来形管理要領 (案)第8編 固結エ (スラリー提弁工)・ パーチカルドレーンエ	位置	D/8以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置 管理表により設計杭芯位置と施工した 杭芯位置との距離を確認 (堀起しによる実測確認は不要)				工事共通編	般 超 改良工			「「3次元計測技術を 用いた出来形管理要額 (案)第8編 固結工 (次ラリー撹拌工)編)」による管理の場	位置	D/8以内	全本数 施工機歴データから作成した杭芯位置 管理表により設計杭芯位置と施工した 杭芯位置との距離を確認 (掘起しによる実測確認は不要)			
					編」による管理の場合	杭径D	設計値以上	工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確認 (掘起しによる実測確認は不要)		L.						â	杭径D	設計値以上	工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確認 (掘起しによる実測確認は不要)	C. L.		
						改良長L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設線 果表により確認 (残尺計測による確認は不要)		G. L.							改良長L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設結 果表により確認 (残尺計測による確認は不要)	0. I		
																				01 L		

					改定案(令	↑和7年10月版)										現行(令和7年4	月版)			改定
					品質管理	基準及び規格値				. 1						品質管理基準及び	規格値			
工種	重別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試成表にる	適用基準	(参考)	工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	減 成能 摘 要 表令 にこっ	検 養 育 有無 よ 産	改定理由
	施工	必須	スランプ試	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm末満: 非容差土1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 非容差土2.5cm スランプ2.5cm: 許容差土 1.0cm	・ 償却し時 1回/日以上、または構造物 の重要度と工事の規模に応 して2003~15003ごとに1 回、及び情節し時に品質を 化が認められた時、ただ し、道路1400では、カーラー が認められた時、ただ し、道路140では、カーラー ・道路140では、カーラー ・道路140では、カーラー が場合して全運搬車測定 を行き路線を戻りが、エラシ ブが駆り結果が安定しり針 鉄の機合は、フランプが 製の信息のに、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー が場合は、カーラー をもった。 のいて整督を をものいて整督を をもの。 のいて整督を をもの。 のいて、を のいて、 のいで、 のいて のいて、 のいて のいて、 のいて、 のいて、 のいて、 のいて のいて、 のいて、 のいて、 のいて、 のいて のいて のいて のいて のいて のいて のいて のいて	台、橋脚、杭類(場所打杭、				1 ンントコリコリムコリ吹ントく セトク (転クトクトグータンー・ンー付けり除) メコー圧 ・・ ダエ・コー	施工	必須	スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm末満: 非容施土1.5cm スランプ8cm以上18cm以下: 非容施土2.5cm スランプ2.5cm: 許容差土 1.0cm	レディーミクストコンク リートを用いる場合とは原則 として全運搬車測定を行 う。・道路橋床版の場合、全運ン プ試験の結果が安定し良好 な場合はその後スランプ戦 験の頻度について監督職員	・小規模工機等では工機当りの総使用量が5003ま満の場合 は1工権回以上の対験。また は1工権回以上の対験。また は1工権回以上の対象。また は1工権の大力を リート工場の品質証明書等の ルをすることができる。1工 種当たりの総使用量が500m3以 を持ちの場合は、50m3ごとに1回 の試験を行う。 添小規模工権とは、以下の工権会、6m3ごとに1回 の試験を行う。 添小規模工権とは、以下の工権会、6m3ごとに1回 の試験を行う。 ボールが、10世代、末応、6m3ごとに1回 の試験を行う。 ボールが、10世代、10世代、10世代、10世代、10世代、10世代、10世代、10世代	有	[修正] 国に李純
1 ト・リー ト・リー ト・リー ト・リー ・ リー ・ ドナ ・ リー ・ アー ・ アー	施工	必須	コンク工権強力の正確強を受ける。	JIS A 1108	回回の試験結果に指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、 指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果の平均値) (世)の試験値の平均値)	出席時に運搬車から採取した談料 1回/日以上、または構造物の重要度とエ字の規模に応じて20m3~150m3~25c1に回 なお、テストピースの単版で は打設場所で採取し、1回につき6個(の7m3個、の28m、 2 早強セメントを使用する 場合とは、必要に応じて1回 につき3個(の3)を追加で 採取する。 ・材合28年の機関での試験とす は、企め機関での試験とす る。ただし、これにより観	リート工場の品質証明書等の みとすることができる。1工 種当たりの総使用量が50m3以 上の場合は、50m3ごとに1回 の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工 種を除く工種とする。(橋				1 ンントコリコリムコリ吹ントく セトリ 転クトルー・ンー・サーリ 転クトルー・シー・サール・シー・サール・シー・サール・コート ダエー・コー	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果上指定した呼び強度の85%以上であること。 20回の試験結果の平均値は、 指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果の平均値) (世)が、1回の試験結果、3個の 供試体の試験値の平均値)	出告等に運搬車から採取した試料 1回/日以上、構造物の重要 度と工事の規模に応じて 20m3~150m3ごとに1回 なお、テストビースは打設 場所で採取し、1回につき6 例(の7~3個、の28~3回)とする。 ・早強セメントを使用する 場合には、必要に応じて1回 につき3個(0 (3 )を追加で 採取する。 ・林令28日強度について は、公の機関での試験とす る。ただし、これにより種	・小規模工種等では工種当りの総使用量が5003ま満の場合 は1工種1回以上の砂酸・また は1レディーシストコンク リート工場の品質証明書等の みとすることができる。1工 種当たりの総使用量が50mの以上の場合は、50m3ごとに1回の映験を行う。	有	[修正] 国に李純
1 セメコー レンクトリー リー リー リーシート リーシート リーシート リー・フー リー・フー リー マートリー く)	施工	必須	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (幹容差)		・小規模工艦※で1工艦当りの総使用量が50m3未満の場合 は1工種1回以上の診験、よンク リート工場の品質適の場合。11工 はレディーミクメ上の場合。11工 場合は、50m3ごとに1回 が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回 が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回 が数を行うに、50m3ごとに1回 に関係工種を比する。11工 種を除く工種を対し、以下の 種を除く工種を対し、以下の (橋) (橋)、採取、無関等)、薬工、 (橋)、採取、無関等)、薬工、 (橋)、採取、再門、本路がム及 (相)、定理工、 (種2、0m以上)、護岸、好ム及 の他二れらに類するこれを工種) とは終書で指定された工種)				1 ンントコリコリムコリ吹ントく セ・リ・ダントコリコリムコリ吹ントで メコービー・・・ ダエ・・コー除 がエ・・コー	施工	必須	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1128 JIS A 1128	主1.5% (許容差)	・存卸し時 1回/日以上、標準物の重要 度と工事の規模に応じて 20m3~150mSごとに1回、及 び停削し時に高質変化が認 められた時。	・小規模工権祭で1工権当りの総使用量が50m3未満の場合は11種1回以上の対験、または11種1回以上の対験、または12レディーミクスを12をができる。1工権当ちの心臓性用量が50m3以上の場合は、50m3ごとに1回の試験を行う、 ・ 根理を1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1年に1	有	[修正] 国に準拠

					改定案(名	· ↑和7年10月版)										現行(令和7年4	月版)				改定
-						基準及び規格値				1						品質管理基準及び					·
					四页 6 25			試験成績		u		T				PHO DE TENTO	The second second		試験成績	П	
工利	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	表等に確	適用基準	(参考)	工 種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	表等に確	有無	改定理由
6 既禁杭工	材料	必須	外観網を対し、いたのでは、からないでは、からないでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、からいいでは、	目視	目視により使用上有害な欠 陥 (鋼管杭は変形など、コ ンクリート杭はひび割れや 損傷など) がないこと。	設計図書による。		0			, 既製	材料	必須	外観検査 (鋼ンクリー ト杭・H鋼 杭)	目視	目視により使用上有害な欠 陥 (鋼管抗は変形など、コ ンクリート杭はひび割れや 損傷など) がないこと。	設計図書による。		0	有	[修正] 国に準拠
6 既集	施工	必須	外観検管がソイトを会が出ります。	JIS A 5525	[円周溶検部の日達い] 外径700m未満: 許容値2m 以下 外径700m以上1,016mm以 下: 許容値3mm以下 が径1,016mm以下 以下: 許容値3mm以下 以下: 許容値4mm以下		・外径700mm未前:上ぐいと 下ぐいの外局長の差で表し、 その差を2mm× π以下とす る。 ・外径700mm以上1,016mm以 下:上ぐいと下ぐいの外間号 の差で表し、その差を3mm× エ以下とする。 ・外径1,016mmを超え2,000mm 以下:上ぐいと下ぐいの外間 長の差で表し、その差を4mm × π以下とする。				; 既製	施工	必須	外観検査(鋼管杭)	JIS A 5525	[円周溶接部の日達い] 外径700mm未満: 許容値2mm 以下 外径700mm以上1,016mm以 下: 許容値3mm以下 以下: 許容値3mm以下 以下: 許容値4mm以下		・外径700ma 末筒: 上ぐいと 下ぐいの外周長) 恋を2mm×π以下とす る。 ・外径700m以上1,016mm以 下:上ぐいと下ぐいの外周長) 恋で表し、その差を3mm× ェ以下とする。 ・外径1,016mmを超え2,000mm 以下:上ぐいと下ぐいの外周長 水で表し、その差を4mm ×π以下とする。		有	【修正】国に帶掲
6 既動	上 施工	必須	鋼管ソン管・リート (ル枕合・コト (ル枕合・コト (水水) (水水) (水水) (水水) (水水) (水水) (水水) (水水	JIS Z 2343- 1, 2, 3, 4, 5, 6	制れ及び有害な欠陥がない。 こと。	原則として全溶接箇所で行う。 ただし、施工方法や確正順 行等から全数値の実施が国 電力を指している。 により、現場状況に応じた 数量とすることができる。 なお、全溶接部所の10%以 上は、JIS Z 2343- 1、2.3,4,5,6により定められ に認定技術者が行うものと する。					; 既製 允工	施工	必須	鋼ン抗現浸験土透験) ・一時の ・一時の ・一時の ・一時の ・一時の ・一時の ・一時の ・一時の	JIS Z 2343- 1, 2, 3, 4, 5, 6	制れ及び有害な欠陥がない。 こと。	原則として全溶接箇所で行う。 ただし、施工方法や施工順 下等から全数量の実施が困盟 観光場合付監督員との協業 数量とすることができる。 なお、全溶極箇所の10%以 上は、JIS Z 2349・ 1.2.3.4.5.6により変められ 上で、DED提供者が行うものと する。			有	【修正】国に學閱
6 既據杭工	施工	必須	鋼管が抗いた。 増管ソントなの 鋼管ソントなの 鋼管シントを・出網状の が見場線透過 が取り、 が取り、 が取り、 が取り、 が取り、 がいののでする。 がいのでする。 がいのででする。 がいのでする。 はいのででする。 はいのでする。 はいのででする。 はいのででする。 はいのででする。 はいのででする。 はいのででする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいでする。 はいででする。 はいででする。 はいででする。 はいででです。 はいでででする。 はいでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1類から3類で あること	原則として溶接20ヶ所毎に 1ヶ所とするが、施工方法や 地工順呼等から実施の困難 な場合は現場状況に応じた 数では調整が表しました。 では調整をするがある。 では調整をは30mのようでは が変を20ヶ所能に1ヶ所とは、溶 接を20ヶ所能に1ヶ所とは、溶 接を20ヶ所がら任盛り1ヶ所を 数載するとである。)					, 既製 坑工	施工	必須	鋼管杭・H鋼 杭の現場溶 接 放射線透過 試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1類から3類で あること	原則として溶接20ヶ所毎に 1ヶ所もとするが、施工力法や 施工順序等から実施が困難 な場合は現場状況に応じた 新では調節を4方向から透 力方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にそ が接を20ヶ所施工した毎にそ の20ヶ所が立任意の1ヶ所を 放験することである。)			有	[修正] 国に準拠
6 既集	施工	その他	鋼管ソンを が、イルイ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	JIS Z 3060	JIS Z 3060の1類から3類で あること	な場合は現場状況に応じた 数量とする。なお、対象箇 所では鋼管杭を4方向から探 傷し、その探傷長は30cm/1 方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶 接を20ヶ所施工した毎にそ の20ヶ所か任意の1ヶ所を 試験することである。)	探傷試験とすることができ る。	St. St.			; 既製	施工	その他	鋼管杭の現 場容接 経 設 族 探 後 終 後 終 後 終 後	JIS Z 3060	JIS Z 3060の1類から3類で あること	な場合は現場状況に応じた 数量とする。なお、対象簡 所では鋼管机を4方向から探 傷し、その探傷長は30cm/1 方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶 接を20ヶ所施工した毎にそ の20ヶ所か任意の1ヶ所を 試験することである。)	射線透過試験に替えて超音波 探傷試験とすることができ る。		有	[修正]国に學践
6 既數	施工	その他	鋼管メ鋼をメ網をはいれた。(網セのは、一下を・一個とり、一個とのは、一個ののでは、一個ののでは、一個ののでは、一個ののでは、一個ののでは、一個のでは、一個のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	比重の測定に よる水セメン ト比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載され ていない場合は60%~70% (中梱り杭工法)、60% (プレボーリング杭工法及 び鋼管ソイルセメント杭工 法) とする。	試料の採取回数は一般に単 杭では30本に1回、継航では 20本に1回とし、採取本数は 1回につき3本とする。				6 t	, 既製	施工	その他	鋼管机・コ ン が (根固め) 水セ メント 比	比重の測定に よる水セメン ト比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載され ていない場合は60%~70% (中梱り杭工法)、60% (ブレボーリング杭工法及 び鋼管ソイルセメント杭工 法) とする。	試料の採取回数は一般に単 杭では30本に1回、離杭では 20本に1回とし、採取本数は 1回につき3本とする。			有	[修正]国に準拠
6 既數杭工	施工	その他	鋼管ソメ網む) リスト (	セメントミル ク工法に用い る根固め がくい同様強度 液の圧縮強度 試験 JIS A 1108	設計図書による。	供談体の採取回数は一般に 単様では30本に1回、離杭で は20本に1回と、採取本数 は1回につき3本とすること が多い。 たお、供談体はセメントミ ルクの供談体の作成方法に 従って作成した65×10cmの 用柱供談体によって求める ものとする。	参考值:20N/mm2			6 木	, 既製 介工	施工	その他	鋼 鋼 が が が が が が が が が が が が が	セメントミル ク工法に用い る根固め適び びくい日 がの圧縮強度 説別 JIS A 1108	設計図書による。	供談体の採取回数は一般に 単抗では30本に1回、維統で は20本に1回と、採取本数 は1回につき3本とすること が多い。 たお、供談体はセメントミ ルタの供談体の作成方法に 従って作成した65×10±00 円柱供談体によって求める ものとする。	参考館:20N/mm2		有	[修正] 国に早拠

					改定案(令	·和7年10月版)										現行(令和7年4	月版)				改定
					品質管理	基準及び規格値										品質管理基準及び	規格値		T		
工種	種別	試験 区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試成表にる験績等よ確	適用基準	(参考)	工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試成表にる	有無	改定理由
14 アス ファルト 舗装	プラント	必須	アスファル ト量抽出粒 度分析試験	舗装調査・試 験法便覧 [4]- 318	アスファルト量:±0.9%以 内	定期的または随時。 印字記録の場合:全数 または 抽出・ふるい分け試験 1~2 回/日		0			14 アス ファルト 舗装	プラント	必須		舗装調査・試 験法便覧 [4]- 238	アスファルト量:±0.9%以 -内	定期的または随時。 印字記録の場合:全数 または 抽出・ふるい分け試験 1~2 回/日		0	有	[修正]国に準拠
14 アスト アルト 3 装	舗設現場	必須	現場密度の測定		基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上 水道 96.5%以上 歩道高所:歩道の瞬面が度 は、平均値が基準密度の 92%以上とする。 ただし、乗り道とでは、車道の 縮級構成が車道と同じ場合 る。	るものとする。 ・締固め度は、10孔の測定 値の平均値X10が規格値を満	・構画部談はコア採取しない で品合材量(グラント出榜の 意と音観、または転圧回数に よな管理を行う。				14 アルト フカ	舗設現場		現場定		基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上 步道箇所: 歩道の勝面が度 は、平均値が基準密度の 92%以上をする。 たば、平均値が基準密度の 92%以上をする。 たば、車道の縮固め度とする。 なり、車道の縮固め度とする。	満足するものとし、かつ平 均値について以下を満足す	・精面構装はコア採販しない で私合材量(アラント出物数 着)と舗設面積及び厚さでの 密度では、または転圧回数に よる管理を行う。		有	類値自   維持工事等の取扱いについて迫   で
30 覆工 コンク リート (NATM)	施工	必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の影験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の影験結果の平均値は、 指定した呼び強度以上であ ること。 (1回の影験結果は、3個の 供款体の試験値の平均値)		的機関での試験とする。ただ し、これにより難い場合は、 監督職員等の立ち会いにより 行うこと。				30 覆工 コンク リート (NATM)	施工	必須	コンクリー トの圧縮強 度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、 指定した呼び強度以上であ ること。 (1回の試験結果は、3個の 供款体の試験値の平均値)	荷時に運搬車から採取した 試料 1回/日以上、構造物の重要	材合28日強度については、公 が機関での対象とする。ただ し、これにより難い場合は、 監督職員等の立ち会いにより 行うこと。		有	(修正)国に準拠
33 路上 再生路盤 工		必須	土の粒度試 験	JIS A 1204	「舗装再生便覧」参照 表-3.2.9 路上で破砕した 路盤再生骨材の目標粒度範 囲による	当初及び材料の変化時					33 路上 再生路盤 工			土の粒度試 験	JIS A 1204	舗装再生便覧参照 表-3.2.8 路上再生路盤用素 材の望ましい粒度範囲によ る	当初及び材料の変化時			有	[修正]国に準拠
34 路上 表層再生 T	施工	必須	かきほぐし 深さ	「舗装再生便 覧」	—0.7cm以内	1,000m2毎					34 路上 表層再生 T	施工		かきほぐし 深さ	「舗装再生便 覧」付録-8に 進じる。	-0.7cm以内	1,000m2毎			有	[修正] 国に準拠

改定案(令和7年10月版) 現行(令和7年4月版)											改定								
	第	3編	i	土	撮影箇所一 木工事共通編】	覧表 (出			[	第3	3編	j	土:	撮影箇所一覧 木工事共通編】				有無	改定理由
編	章	節	条	枝番	工 種	撮影項目	写真管理項目 撮影頻度[時期]	摘要	編	章	節	条	枝番	工  種	撮影項目	写真管理項目 撮影頻度[時期]	摘要	1	
3 土 木	_	基	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭)	偏心量	1施工箇所に1回 〔打込後〕	3-2-4-4	3 土 木	2 一 般	4 基 磁	4		既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭)	偏心量	1施工箇所に1回 〔打込後〕	3-2-4-4	有	[修正]枝番の追加
工事共	施工	Ĩ			(H鋼杭)	根入長	1施工箇所に1回 〔打込前〕		木工事共	施工	Ĭ				根入長	1施工箇所に1回 〔打込前〕			
通編						数量	全数量 [打込後]		通編						数量	全数量 [打込後]			
						杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前,中,後〕								杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前,中,後〕			
3 土 木	_	基	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	偏心量(鋼管杭· 掘削心)	1施工箇所に1回 〔打込後〕	3-2-4-4										有	[追加]国に準拠
工事共	施工	Ĩ				根入長(鋼管杭,ロッド)	1施工箇所に1回 〔打込前〕												
通編						数量, 杭径(ソイ ルセメント柱径)	全数量 杭頭余盛部の撤去 前, 杭頭処理後												
						杭頭処理状況	1施工箇所に1回 〔処理前,中,後〕												
3 土 木	_	地	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工)	位置·間隔 杭径	1施工箇所に1回 〔打込後〕	3-2-7-9	3 土 木 工	2 一 般	7 地 盤	9	1		位置·間隔 杭径	1施工箇所に1回 〔打込後〕	3-2-7-9	有	[修正]国に準拠
工事共	工	盤改良工			(スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	深度	1施工箇所に1回 〔打込前後〕		工事共	般施工	改良工				深度	1施工箇所に1回 〔打込前後〕			
通編							ただし、(スラリー攪拌工)において「3次元計測技術を用いた いて「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(家)第8編固 結工(スラリー撹拌工」・バーチ カルドレーン編』により出来形 管理資料を提出する場合は、 出来形管理に関わる写真管理 項目を省略できる。		通編							ただし、(スラリー攪拌工)において「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)第8編固 結工(スラリー攪拌工)編 により出来形管理資料を提出する 場合は、出来形管理に関わる 写真管理項目を省略できる。			

### 03 品質管理の試験項目及び規格値(港湾漁港編)

# 4. 防食材料

### 4-1 アルミニウム合金陽極

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1)電気防食陽 極	陽極の種 類,化学成 分	承諾した品質に適合 していること。	製造工場の試験成績表(検 査証明書)により確認	監督職員が承諾し た図面	搬入前	試験成績表(検査 証明書)を提出	
	形状寸法		より確認	た図面 各陽極の形状寸法 の許容範囲は±	搬入前、全数 陽極長さ:全数 陽極断面: 製品1から5番目までの 5個	工場の測定表を 提出	
	質量	承諾した品質に適合 していること。	計量器により測定			工場の測定表を提出	
	陽極性能	陽極電位(閉路電 位)	製造工場の試験成績表により確認	-1,050mV以下(vs 飽和甘こう電極 (SCE))	搬入前	試験成績表を提 出	
		発生電気量	製造工場の試験成績表に より確認	2,600A·h/kg以上	搬入前	試験成績表を提 出	

### 4-2 防食塗装

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1)塗装材	材質	種類	観察	「特」による。	施工中適宜		
		品 質	「特」による。	「特」による。		試験成績表(検査 証明書)を提出	

#### 4-3 被覆防食材料

区分	管理項目	管理内容	管理方法	品質規格	測定頻度	結果の整理方法	備考
1)モルタル被覆	材質	種類	観察	「特」による。	施工中適宜		
		品質	「特」による。	「特」による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	
2)保護カバー	材質	種 類	観察	「特」による。	施工中適宜		
		品質	「特」による。	「特」による。	搬入時、ロット毎	試験成績表(検査 証明書)を提出	

# 05 写真管理撮影基準一覧表 (港湾漁港編)

<b>工</b> 任	撮影区分 撮影項目 撮影 第 節 堤 影 時 期		<b>冷辛市在17.5</b> 500			
工 種	<b>掫</b> 彰區分	<b>掫</b> 彰垻日	撮影箇所	撮 影 時 期	撮影頻度	注意事項及び説明
3)ペトロラタム被 覆	施工管理	使用船舶機械等	曳船、台船、潜水土 船、溶接機等	取付時	1回	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
復		製品(FRP等)		取付前、取付後	規格毎1回	
		施工状況	設置状況	取付時	適宜	FRP等保護材の設置状況
	品質管理	形状寸法	測定状況	測定時	1回	
	出来形管理	出来形の確認	被覆防食完了状態	取付完了時	1回	完了の部分(1箇所)及び正面全体と延長方 向を撮影
(素地調整)	施工管理	使用機械	コンプレッサー, ケレン 工具等	施工時	1回	使用機械器具が判明できるように撮影
		施工状況	作業状況	施工時	適宜	
	出来形管理	完 成	完成全景 素地調整完了状態	完成時	<del>1回</del> 適宜	完了部分(適宜)
<del>(防食工)</del> (被覆)	施工管理	使用機械	取付用工具	施工時	1回	使用機械器具が判明できるように撮影
		施工状況	作業状況	施工時	適宜	
	出来形管理	出来形の確認	測定状況	測定時	<del>1回</del>	
		完 成	完成全景 被覆完了状態	完成時	<del>1回</del> 適宜	完了部分(適宜)
4)コンクリート被 覆	施工管理	使用船舶機械等	曳船, 台船, 潜水士 船, 溶接機等	施工時	1回	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
		被覆防食の作業状 況	施工状況	施工時	適宜	
	出来形管理	出来形の確認	被覆防食完了状態	完了時	1回	完了の部分(1箇所)及び正面全体と延長方 向を撮影
5)防食塗装	施工管理	使用船舶機械等	曳船, 台船, 潜水士 船, 溶接機等	施工時	1回	使用する船舶機械等が判明できるように撮影
		塗 装	施工状況	施工時、各層毎	適宜	
	出来形管理	出来形の確認	塗装完了状態	完了時	1回	完了の部分(1箇所)及び正面全体と延長方 向を撮影

#### 3-2 土捨工

工種	撮影区分	撮影項目		撮影基準		注意事項及び説明
工作	1取 おい	<b>城</b> 彩填日	撮影箇所	撮 影 時 期	撮影頻度	<b>注息争項及び説明</b>
1.排砂管設備工						3-1-1排砂管設備工を適用する。
2.土運船運搬工						3-1-2土運船運搬工を適用する。
3.揚土土捨工						3-1-3揚土土捨工を適用する。